

元気！ 生き生き
女性研究者・公立大学モデル

どうなるの?! 女性研究者支援事業のこれから

総括シンポジウム開催

日時 H24.11.30 (金) 13:00~17:00

場所 大阪府立大学
中百舌鳥キャンパス 学術交流会館 多目的ホール

実行委員会を組織して 総括シンポジウムを開催します

今年度が文部科学省補助金の採択期間最終年度であることから、総括シンポジウムを開催することになりました。このシンポジウムは、これまでの女性研究者支援事業を振り返るとともに、今後の全学的な支援体制を定着・発展させることなどを目的としているため、各部署に協力を依頼し、教職員16名で組織する実行委員会を立ち上げました。



実行委員会では平成24年5月の第1回会議を皮切りに、シンポジウムのテーマや内容、講師の選定などを協議してきました。今回のシンポジウムを学内外にアピールするものにしたいと熱い議論が交わされ、他大学や企業の先進例を学んだ上で、これまでの支援事業を利用した方々の生の声を聞き、今後については各部署長と理事長から話していただくというアイデアが出ました。そのアイデアと熱意を汲んで、関係者のみなさまにご協力いただき、シンポジウム開催の運びとなりました。今後も男女が広く活躍できる社会の実現に貢献できるよう取り組んでいきます。

プログラム

- 13:00-13:10 開会の挨拶
- 13:10-14:40 第I部 政策と先進例の紹介
 - ・「男女共同参画と研究力向上」
文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課(予定)
 - ・「大学教員のワーク・ライフ・バランスを考える」
内山 智裕(三重大学 生物資源学研究所准教授)
 - ・「シャープにおけるダイバーシティ推進について」
森 仁美(シャープ株式会社 人事本部 人事部 ダイバーシティ推進チーム チーフ)
- 15:00-17:00 第II部 学内からの報告
 - ・女性研究者支援事業報告(センター長)
 - ・女性研究者支援事業 利用者から
 - ・各部署長からの応援メッセージ
 - ・これからの女性研究者支援事業について(理事長・学長)

NEWS LETTER

No.7 2012.11

文部科学省 科学技術人材育成費
「女性研究者支援モデル育成」事業



女性研究者支援センター

元気！ 生き生き 女性研究者・公立大学モデル

大阪府立大学では、プロジェクト「元気！ 生き生き女性研究者・公立大学モデル」を実施しています。これは、平成22年度「科学技術振興調整費(女性研究者支援モデル育成)」に、公立大学としては全国で初めて採択された取り組みです(平成23年度~「科学技術人材育成費」)。

平成24年度 オープンキャンパス H24.8.4(土)・5(日) 中百舌鳥キャンパス A5棟<275名参加> 「めざせ! 理系女子コーナー 先輩と話そう」を開催

アイリス IRIS が中心となって、 理系に進路を考えている 女子高校生・受験生の 疑問や質問に答えました



参加者の質問に答えるIRIS

午前中は、2011年度からスタートした工学域、生命環境科学域(緑地環境科学類と自然科学類)の説明会でIRISが理系女子コーナーのアピールをしました。その後、IRISのメンバーが専門分野ごとの部屋に分かれ、先輩として参加者の質問に答えたり、大学での学生生活や研究内容について話しました。

今回は開催時間をのびたこともあり、昨年を上回る来場者で、どの教室も賑わっていました。最初は遠慮がちだった参加者も、IRISと話していくにつれ打ち解けて、積極的に質問をするようになっていました。その間、保護者の方には別室で、当センターの運営委員の細越裕子教授(本学理学系研究科)、森澤和子准教授(本学工学研究科)が、理系の女子学生の現状や学生生活について説明し、質疑応答を行いました。

参加した高校生からは、「知りたかったことがわかって良かった。理系女子にあこがれます」、保護者からは、「先生のお話が直接伺えて、とてもよかった」「親には解決できない不安を女子大学院生に話し、アドバイスしていただけたようです。感謝しています」などの感想が寄せられました。



学域説明会での様子

◆IRIS の感想

●このイベントを通じてやりたいことを見つけ、将来活躍する人物になってくれたらいいなと思いました。また、「社会に役立つ研究がしたい」、「〇〇を学んでみたい」という高校生の純粋な志に触れて、自分が10代の頃抱いていた夢や目標や不安を思い出しました。今ある環境に感謝して最後まで大学院生活を充実させるよう背中を押してもらったように感じます。理系女子って素敵! と思ってもらえたかどうかは分かりませんが、高校生が理系の進路を選ぶ一つのきっかけになれば嬉しいです。

IRISについては中面をご覧ください。

女性研究者支援センターの 相談窓口

大阪府立大学の女性教職員及び女子学生を対象に、2つの相談窓口を開設しています。

支援センター 相談

研究を続けていく上で困ったこと、悩んでいることについて、支援センターのコーディネーターが、あなたに必要な支援や情報を一緒にお探します。

女性の健康 相談

職場・研究環境と健康に関わる問題について、助産師がサポートします。

スケジュールに変更がある場合があります。女性研究者支援センター・ウェブサイトをご確認ください。

相談日スケジュール

- 第1月曜日 9:30~13:30 羽曳野キャンパス
- 第2月曜日 9:30~13:30 りんくうキャンパス
- 第2・3水曜日 9:30~13:30 中百舌鳥キャンパス

女性の健康相談ミニ・セミナー <各相談日の12:15~12:45>

自分自身の健康について考えてみませんか? 毎月テーマを変えて、相談員(助産師)によるミニ・セミナーを開催しています。

●12月のテーマ

「簡単にできる応急手当」
ケガをした! 出血した! やけどした! のどにつまった! そんな時、身近なもので簡単にできる応急手当を知っておくと安心です。

ミニ・セミナー 報告

10月のテーマは、「むくみをとってすっきりボディ!!」でした。むくみをとる方法の一つとして、リンパマッサージの方法を教えてもらい、実際にやってみました。以外にも軽くさするだけで良いということを知りました。

『ロールモデル集第3集』を 発行しました



学内外の女性研究者や、社会で活躍されている女性をご紹介します。



デジタル・パンフレットを女性研究者支援センター・ウェブサイトに掲載しています(第3集は12月掲載予定)。ぜひご覧ください。

「支援センター相談」と、「女性の健康相談」の個別相談には、予約が必要です。お問い合わせ・ご予約は下記へ。
※件名に「相談」と入れてください
●E-mail w-support@ao.osakafu-u.ac.jp

公立大学法人 大阪府立大学 女性研究者支援センター

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1
(中百舌鳥キャンパスB16棟)

TEL・FAX (072) 254-9856 (内線5057)
E-mail w-support@ao.osakafu-u.ac.jp
URL http://www.opu-genki.jp



子育ての悩みを気軽に相談できる「場」が支えになる

府大高専の常勤教員は現在77名、うち女性教員は7名で、約1割を占めています。7名のうち4名は文系の一般教育科目担当であり、工業系の専門コース担当教員は56名中3名に留まっています。やはり少ないですね。現在、1名が産休中ですが、子育てをしながら働く環境は何かできていないかと思えます。

かく言う私も、府大教員時代は共働きでした。妻が看護師なもので、毎週深夜・準夜勤が入るため、保育所への子どもの送迎、夕飯準備・後片付け、入浴、洗濯、掃除など家事の一切を毎週1回は引き受けていました。3人の子どもが小学校へ上がるまでの10年余はまさに格闘でした。子どもの夜泣きに一晚中つきあわされたり、おしめを替えて、便器の中で素手でも洗いするのも慣れました。ぐずる子どもをなだめすかして保育所へ連れて行ったり、急に熱が出て病院へ走り、一日中付き添ったりすることもありました。このような経験から、女性が仕事に集中して働けるようにするためには、女性だけでなく、男性も子育てに参画できる態勢が必要だと思えます。

ロールモデルは様ではなく、人によって必要とされる支援の

公立大学法人 大阪府立大学 理事
大阪府立大学工業高等専門学校長 長澤 啓行

内容も異なります。ご両親が近くで支えて下さる場合や、逆に、年老いた両親の面倒も見なければならぬ場合もあります。子どもが病気や障がいをもっている場合はケアに時間がかかります。個々人にあった支援を提供できればと思いますが、とても難しい。まずは、女性教員やパートナーの男性教員が気軽に相談できる「場」を醸成し、可能な支援をしていくのが良いと考えています。当然、周囲の教員や学生の協力も必要ですし、ときには校務分掌の交代や分担も必要になります。府大高専では府大ほど規模が大きくないため、校長が一人ひとりの教員と向き合うことも可能ですので、できるだけ相談に乗っています。全教員が元気に仕事のできる状態を作りたいと常日頃から考え、努力しているつもりですが、真意が伝わって「場」ができていくかどうか、定かではありません。

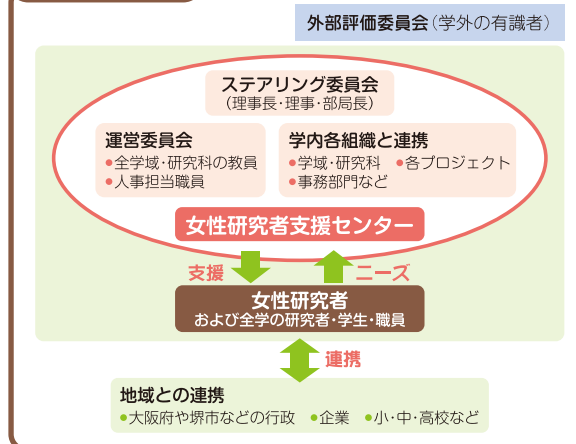


「元気! 活き生き女性研究者・公立大学モデル」事業の概要と取り組みを紹介します。

プログラムの目的・・・全学的システム改革

- 理系女性研究者の増加**
- 事業終了までの3年間で理系女性研究者数を平成21年度の30%増やす。
 - 理系博士課程を修了する院生の女性比率を25%まで引き上げる。
- 環境整備**
- 相談窓口・メンター制度・保育室を開設する。
 - 出産・育児等の問題に直面した理系女性研究者のために研究支援員を配置する。
- 地域貢献**
- ロールモデル・バンクの構築と活用により地域に貢献する。

組織・実施体制



アイリス 大学院生チームIRIS(I'm a Researcher In Science)が活躍しています

小・中・高校生に科学の楽しさを伝える理系女子大学院生チームIRISが、地域からの依頼を受け、どんどん科学の楽しさを広めています。

子どもサイエンス・キャンパスを開催

5月に、IRISへのイベント実施申込説明会を行ったところ、多くの申し込みがあり、夏休みを中心に子どもサイエンス・キャンパスを行いました。



H24.7.21(土)	吹田市立男女共同参画センター(デュオ)	れんげの水飲み鳥を作ろう!	小学生と保護者12組28名
H24.7.26(木)	和泉市男女共同参画センター	れんげの水飲み鳥を作ろう!	小学生28名と保護者12名(低学年は保護者同伴)
H24.8.4(土)	大阪市立男女共同参画センター東部館(クレオ大阪東)	れんげの水飲み鳥を作ろう!	小学生と保護者16組32名
H24.8.10(金)	中百舌鳥子ども会	箱カメラ(ピンホールカメラ)	小学生34名と保護者8名
H24.8.19(日)	東大阪市立男女共同参画センター(イコラム)	スライムを作ろう/ クロマト・アート	幼児~小学生100名
H24.8.25(土)	特定非営利活動法人 こどもNPOセンターいずみっ子	人工いくらを作ろう!/ 食塩水で虹を作ろう!	小学生~中学生14名と保護者1名
H24.8.31(金)	大阪市立男女共同参画センター西部館(クレオ大阪西)	人工いくらを作ろう!/ 食塩水で虹を作ろう!	女子中学生15名

高校生との交流

ノートルダム清心学園 清心女子高等学校との交流会

H24.8.9(木)・10(金) 清心女子高等学校生徒24名、教員3名/本学教員5名、IRIS 4名参加

清心女子高等学校1・2年生の皆さんが本学を訪問し、本学の女性研究者やIRISと交流しました。りんくうキャンパスで、獣医臨床センターなどを、本学教員とIRISの案内で見学し、馬の骨を実際に触り、組み立てる等の体験などを行いました。翌日は中百舌鳥キャンパスで、本学入試室から大学や入試についての説明があり、その後、放射線三講座や放射線研究センター(線源棟)の見学、グループトークなどを行いました。



ノートルダム清心学園 清心女子高等学校 「集まれ! 理系女子 第4回女子生徒による科学研究発表交流会」にIRIS2名が参加

H24.10.27(土) 福山大学社会連携研究推進センター

- 企画実施講習会を実施 H24.6.4(月)・6(火) 26名参加
- 「第12回異分野融合セミナー(夏の異分野融合祭)」で、IRISが研究内容のポスター発表を行いました H24.8.24(金)
- IRIS café を実施 H24.9.18(火)、H24.10.18(金) のべ14名参加 IRISメンバーで交流の場を持ち、情報交換を行いました。

サポート基盤の整備

学内の各部署との連携・協力体制を強化します。大阪府や堺市をはじめとする地域との連携を深め、地域貢献を図っていきます。

IRISが地域に出向き「子どもサイエンス・キャンパス」などを開催しています(上記参照)

大阪府等と協働して事業を行っています(上記参照)

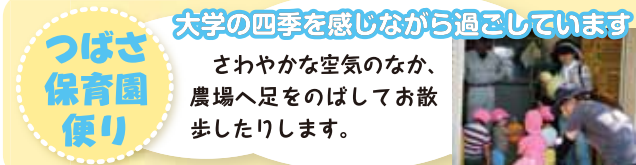
支援のための環境整備

推進体制を整えるとともに、女性研究者への直接支援などを行っています。

他機関との連携をしました

- 東大阪市立男女共同参画センターの「イコラム・カレッジ」にて事業紹介 H24.8.26(日)
- サイエンスカフェ伊丹の「リケジョフォーラム」に資料参加し、事業紹介 H24.8.26(日)
- 第10回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムにポスター発表 H24.10.7(日)

女性研究者懇話会(ランチ・ミーティング)を開催しました H24.7.6(金) 6名参加



女性研究者支援SNSで情報交換をしています

9月末現在 58名参加

SNS内での会議、イベント案内と募集、意見交換を行っているほか、忙しい女性のための生活に役立つコミュニティなどで活用しています。女性研究者支援センター・ホームページから入れます。



本学産学官研究連携戦略室と連携し、女性研究者の外部資金獲得のための支援をすることになりました

企業と連携

- 総括シンポジウム(裏面参照)に株式会社シャープから講師招聘
- パナソニック株式会社でサイエンス・カフェを開催予定

IRISが京都の株式会社島津製作所を見学研修会(サイエンス・カフェを兼ねて)実施 H24.9.20(木) IRIS 15名参加

資料館や、ショールーム、工場を見学しました。その後のサイエンス・カフェでは、本学出身の女性技術者と人事課長との懇談会を行い、「工場では、真横でものづくりを見ることができ、貴重な体験だった」「どういう現場で、女性在实际働いているのかを知ることができた」などの感想がありました。



キャリアパスの構築と裾野拡大

女性が研究者として活躍するキャリアパスを構築すると共に、理系を志す女性の数を増やします。

サイエンス・カフェを開催 H24.9.24(月)・25(火) 中百舌鳥キャンパス

- 「メンティのための内的キャリア発見講座」 7名参加

講師:中谷 敬子 (大阪府立大学工業高等専門学校 准教授)

「メンターとは何か」から、中谷准教授の経験談まで幅広くお話しいただきました。カードを用いてグループワークを行い、自分の価値観を見つめる機会となりました。



- 「アサーション講習会」 7名参加

講師:山中 京子 (大阪府立大学 人間社会学研究科 教授)

前半はアサーションについての講義があり、後半はグループワークおよびロールプレイングを行いました。アサーションとは何か、なぜ必要なのか等、基本から分かりやすくお話しいただきました。



ロールモデル・セミナーを開催

- 「農学から食生活、健康へ」 H24.7.25(水) 中百舌鳥キャンパス 144名参加

主催:大阪府立大学 女性研究者支援センター
共催:大阪府
協力:一般財団法人 大阪府男女共同参画推進財団/大阪府立大学 女性学研究センター
講師:於勢 貴美子(大阪大谷大学 教授 農学博士)
高等教育推進機構教養科目「ジェンダー論への招待」を兼ねて開催

講師の於勢教授は、本学の農学研究科(現生命環境科学研究所)の卒業生ということもあり、学生時代のお話から研究内容まで幅広くお話しいただきました。私たちにとって身近な「食」についての研究をされており、流通上の食品保存方法など専門的なお話も聞くことができました。



- 「人と協調するパーソナルモビリティ・ピークル(PMV)の研究」 H24.7.31(火) 中百舌鳥キャンパス 19名参加

主催:大阪府立大学21世紀科学研究機構「看護システム先端技術研究所」
共催:大阪府立大学 女性研究者支援センター
講師:中川 智皓(大阪府立大学 工学研究科 助教)

中川助教が研究するPMVは、高齢社会、環境保全などの観点から、人にも環境にもやさしく、利便性・柔軟性を持ち、かつ健康的、経済的な個人の新しい移動車両だと話されました。講演の後に試乗会も開催されました。



- 2012年度 第2回 女性学講演会に協力しました

「マリー・キュリーのキャリアに見るジェンダーと科学の問題」
H24.9.22(土) 中百舌鳥キャンパス 56名参加
主催:大阪府立大学 女性学研究センター
協力:大阪府立大学 女性研究者支援センター
講師:川島 慶子(名古屋工業大学 准教授)

今後の事業予定

- ロールモデル・セミナー 講師:染谷ゆみ(株式会社ユーズ代表取締役社長) H24.12.20(木)16:15~17:45
- ロールモデル・セミナー 講師:蓑田裕美(株式会社資生堂)/「世界に翔け! 理系女子大学院生」公開審査会・表彰式 H25.1.25(金)13:30~17:00

今後の予定については、決まり次第、女性研究者支援センターのウェブサイトなどでお知らせしていきます。

府大 女性研究者